

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400066		
法人名	有限会社リナ		
事業所名	グループホーム月の里		
所在地	千葉県千葉市若葉区中野町727-1		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年4月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが自由に安心して過ごせる環境作りをしています。天気の良い日には散歩を実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の定着率が高くホームとして安定しており、その安心感からか入居者の笑顔が多く見られる。身内との縁の薄い入居者が多く、職員の存在が入居者の精神的な支えになっている。福祉事務所とは密に連携が取れており、その信頼も厚い。また、退院時に何箇所もあった床ずれを回復させるなど、ケアが行き届いている。地域の中での認知度も上がってきており、評価での指摘事項への改善にも意欲的である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(A棟) および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心と尊厳のある生活が出来るように職員もその人に合わせた介護をしています。	理念は常に意識して実践できるよう、すぐ目に入る場所に貼り出している。管理者やケアマネは「入居者の穏やかな生活を支えるためには、まず職員の体調管理が大切である」と伝えている。職員も日々、理念を意識してケアに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	散歩に行き出会った人に挨拶をする。夏祭りなどに参加し入居者の方がカラオケを歌わせていただいたりしています。その他敬老会に参加。	近隣の人への挨拶は欠かさず、地域の敬老会に参加している。すぐ近くのお寺でカラオケを楽しんだり、民生委員との関わりも深くなってきた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方と連絡を取り合い地域で困ったことがあったら相談しに来て下さいと言っています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会会長、利用者の家族の方々と今までの状況など説明し家族の方々のホームに対しての意見交換、こうして欲しい希望などを聞きサービス向上に役立てています。	今年度は1回開催した。民生委員は所用で不参加だったが、地域住民・家族・職員が参加し、ホームの現状の説明などが行われた。	運営推進会議は予定を組んで定期的に開催し、市か地域包括支援センターからも参加が得られるように働きかけることが必要と思われる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が多いため事務手続きなど頻回に行政に出向きアドバイスや情報提供を受けています。	市のグループホーム連絡会に出席したり、福祉事務所に入居者について相談を持ちかけたりしている。市の担当者とも密に連絡を取っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	食事、休憩時間を利用し身体拘束をしないケアのミーティングをしています。玄関の施錠などせず自由に動き回れるように取り組んでいます。	身体拘束をしないケアについては、日々の支援の中で常に意識している。また、言葉かけや対応においても拘束につながらないよう、全職員で気を付けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修をし、職員全員で共有できるよう目に付く場所に貼ってあります。		

グループホーム月の里 自己評価(A棟)および評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉権利擁護センターと連携し、必要な方には利用していただいています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間をかけ、利用者や家族の不安や疑問点を解消し理解していただく。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との人間関係を大切にし何でも話しやすい雰囲気を作り随時要望を聞いています。	意思表示をしにくい入居者や、身内との縁が薄い入居者も多い中で、意見を言いやすい関係を築くよう、心がけている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見を管理者、代表者を交えて話し合う機会を設けています。	職員の定着率が高いので、仕事の連携はスムーズにいっている。職員が休み時間に意見を言えるなど、自由な雰囲気はあるが、全職員そろってのミーティングの実現には至らず、意見を運営に反映させているとまでは言えない。	シフトの関係で、全職員参加のミーティング開催は難しい面もあるが、全職員が同じテーマで直接意見交換をし、問題提起していく機会を作ることが期待される。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が常に職員の勤務状況を把握し、代表者に給与水準を見直していただけるよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加するように職員に促しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員で地域交流会に参加。		

グループホーム月の里 自己評価(A棟)および評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の話に良く耳を傾け、職員も本人の求めていることを理解するよう努めています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の話を良く聞き安心して預けていただける関係づくりに努めています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族から話を聞いた上で専門家としての判断をし、何が利用者のためになるか考えた援助をするようにしています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者を人生の先輩として敬い、利用者の方が毎日楽しく過ごせる支援をして喜怒哀楽をともにし支え合う関係を築いています。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との関係を理解し、ほんにんと家族の絆の絆を築けるよう支援しています。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人がいつでも訪ねてきてくれる。友達から連絡あれば必ず伝えて面会の機会が出来るよう配慮しています。</p>	<p>自分から出かけていくことが難しい場合は、知人にホームへの来訪を促すなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。ホームでは年中行事を大切にしており、かつて大切にしていた習慣や風習を思い出す機会を作っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ホームの方々が孤立せず助け合って交わり会えるような支援に努めています。</p>		

グループホーム月の里 自己評価(A棟)および評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動後や入院しても面会に行ったり家族の相談助言に応じています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者同士安心して生活できる雰囲気作りと意向を聞き困難な場合であっても生活歴などを考慮し出来るだけ希望に添うよう努めています。	介護度の高い入居者も多く、本人から意向や希望を聞き取ることは困難なこともある。管理者は職員に日常のケアで、一人ひとりの様子を細かく観察するよう伝えている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を聞くだけでなく、家族やこれまでのサービス提供者などからも情報を聞くよう心がけています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や心身の状況を観察し小さな変化にも気づくよう心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで職員が話し合い、家族の面会時に説明し適切な対応が出来るよう計画を立てています。	介護計画時に家族の参加は難しく、全職員参加のカンファレンスを行い、日常のケアで把握した気付きもとに計画作成担当者が介護計画を作っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を事細かに個別に記録するとともに毎日情報交換のための話し合いを行っている。必要があれば計画の見直しにつなげています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉や介護、医療制度について学んでいます。介護の方法や相談にも応じる旨を家族に伝えるよう努力しています。		

グループホーム月の里 自己評価(A棟)および評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ消防、警察と連携をとり民生委員等とも協力しながら支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、異常時の受診に応じられるような体制を整えています。家族などの希望を大切に適切な医療受診が出来るよう支援しています。	病状が安定した入居者やかかりつけ医が遠方で通院に時間がかかることなどで、ホームの提携医療機関に変更した入居者もいる。定期的な受診はホームが支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時に心身の状況や対応について医師や看護師より情報提供を受け指導していただいています。インターネットからの情報も参考に学習しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には面会を頻回に行い安心して療養できるよう心がけています。病院関係者と情報共有できるよう努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師からの情報を基に出来るだけ早い段階から家族、行政と相談し方向を定めています。	入居者の介護レベルが上がっていることもあり、看取りの研修や医師との話し合いも行っている。ホームとしては入居者が食事が摂れるまでは支援をする意向である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は施設長に連絡するとともに緊急時対応マニュアルに従って対応。定期的に勉強会を開催している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をしたり、地域の協力が得られるように普段からの交流を心がけています。	年2回の防災訓練を行っている。緊急対応時の手順書は分かりやすく大きな字で書かれ、リビングと事務所に掲示されている。昨年は近隣住民参加の訓練も行われた。	災害訓練では場面を想定した訓練なども必要と思われる。また、掲示されている手順書を朝礼の時に職員で確認するなど、いざとなった時に慌てずに行動できるように日常的な取り組みも期待したい。

グループホーム月の里 自己評価(A棟)および評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、排泄や入浴、着替え時には他の利用者さんの目に触れないようドアを閉めて対応している。誇りを傷つけないよう本人の気持ちに配慮した声かけを行っている。	入居者には尊厳に配慮した接し方を心がけている。名前を呼ぶ時もその人の希望する声掛けを行っており、基本的には「さん」付けで呼んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者さんに話しかけたり日々の言動から理解すべく努めている。本人の持っている能力を活かして自己決定を図っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活スケジュールは決まっていますが一人一人のペースを大切に希望に添って支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたら着替えていただき常に清潔な衣類を着ていただいています。行事や外出の時にはなるべく本人の意見を聞くようにしています。ひげは毎日剃り、整髪はのびたら定期的にスタッフが切っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が準備しています。片づけが出来る人にはカウンターまで配膳、下膳していただいています。行事の時には手作りの散らし寿司や弁当を頼んだりしています。利用者の好みを聞いて献立に反映しています。	食材は法人が一括して購入し、毎日の献立は当番職員が決めている。入居者は食後の下膳やテーブル拭きなど出来ることを手伝っている。食後入居者が歌を披露してくれた。	入居者の身体能力に差があり、食事介助の多いユニットでは職員と一緒に食べることは難しいが、可能なユニットでは出来ることなら職員も一緒に食事を楽しむことが望まれる。また、入居者の好みが反映されたメニュー作りも期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時歯科受診実施。定期的に訪問歯科診療を受け利用者の良好な口腔状態の維持に努めています。指導を受け個々の状態に配慮した口腔ケアを実施しています。		

グループホーム月の里 自己評価(A棟)および評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行っている人もパットの汚れ、装着の確認実施。尿意の訴えない方でも時間を見計らいトイレ誘導し排尿、排便を促しています。排泄チェック表は1日及び月単位で個々の状況が把握できるようになっています。	排泄チェック表を参考に時間を見てトイレ誘導を行い、自立に向けて支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食事の提供を心がけています。又水分量を把握し不足のないよう留意しています。リビングに誘導し体力に無理のない範囲での離床を心がけています。下剤に頼らないよう努めていますが使用する時もあります。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日は決めています但本人の拒否があった場合には無理強いせず他の曜日で対応しています。	入浴は週2回が基本で、体調の悪い場合には清拭を行っている。寝たきりの入居者が、清拭を丁寧に行うことで、ひどかった褥瘡が改善されたケースもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンや健康状態を把握し疲れの見える人には臥床していただいています。眠剤に頼らないよう安眠環境を整えるように努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方通りに服薬援助。個別に薬ノートをつくり又管理も間違いのないよう工夫しています。副作用については医師、薬剤師に質問するなどし情報収集実施。その他インターネットでの情報収集をし職員に提供しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感が感じられる行事や誕生会を提供。その他地域のお祭りなどに参加させていただいています。天気の良い日には庭での日光浴や散歩を心がけています。重度の認知症の方が殆どなので役割を持っていただくには至っておりません。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調を考慮して買い物や散歩など出かける機会を設けています。ドライブで海へ行ったりお花見やもみじを見に言ったりして気分転換を図っています。	天気の良い日は毎日散歩に出かけている。外出したがる入居者には、庭に出て日光浴することを勧めたり、いったん外に出て別棟の隣のユニットに行くなど、外気に触れる工夫をしている。	



グループホーム月の里 自己評価(A棟)および評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対する認識や希望を訴える能力に乏しいため職員が援助しています。家族や生活保護の方は行政と確認を取り合い対応しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙は必ず本人に取り次いでいる。必要に応じサポートしています。手紙の代読、代筆も本人の能力に応じ支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ季節の花を飾っています。展示物や壁飾りなどに季節感を取り入れています。空調はこまめに調整しています。	リビングは日当たりも良く、明るい雰囲気である。壁には季節を感じさせる折り紙の作品や、ホーム行事の写真が貼られており暖かい雰囲気である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置きいつでも自由に座っていただいています。他の入居者や職員とテレビを見たり会話したりして過ごしていただいています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみのものを極力おいていただいています。配置などは本人の状況に応じ事故のないよう配置しています。つまずきや転倒の原因にならないよう整理整頓を心がけています。	居室は清掃が行きとどいており、清潔感がある。緊急で入所する人が多く、馴染みのものがなかなか揃わない人もいるが、できる限り居心地よく過ごしてもらえよう、支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱が生じないよう個々の居室に表札をトイレにも表示しています。混乱した様子の方には声かけし誘導援助をしています。		